

News Letter

琉球大学広報誌

2022 April Vol.30



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

News Letter Vol.30 2022年4月発行

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

総務部総務課広報係

TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

撮影場所：FMぎのわん

[目次]

●注目！琉大生

02

琉球大学公式ラジオ
「琉大やいび～ん」メンバー



●特集Ⅰ： 琉大ブランド商品開発支援事業

03

- ・R217酵母仕込み 琉球大学の泡盛
- ・琉球大学が育てた 琉大ミーバイのアクアパツツア

●特集Ⅱ： 授業紹介

07

- ・野入直美先生「現代社会のしくみ」
- ・山田広幸先生「大気の科学」
- ・島袋有子先生「適応の心理」
- ・吉田たけお先生「情報科学演習」



●ニューストピックス

11

●基金だより

13

琉球大学公式ラジオ「琉大やいび～ん」は・・・

「琉大やいび～ん」メンバー

- | | | |
|--------------------|--------------------|-----|
| (前列) | (後列) | (左) |
| ・工学部1年次 池原樹さん(左) | ・観光産業科学部4年次 金武諒馬さん | |
| ・農学部2年次 皆葉あかりさん(右) | ・工学部1年次 仲江百代さん(右) | |
| (中列) | | |
| ・理学部3年次 國吉拓真さん(左) | | |
| ・理学部3年次 比嘉基貴さん(右) | | |



琉球大学公式ラジオ「琉大やいび～ん」は、琉大の学生メンバーが毎週土曜日 13 時～14 時にコミュニティラジオ局「FM ぎのわん(FM79.7MHz)」で生放送しています。昨年 8 月に始まった「琉大やいび～ん」ですが、パーソナリティやミキサーなど全てが初めてのことばかりで戸惑っていた学生も、今やプロ顔負けの頼もしい存在です。現在は、メンバーの学生が興味を持ったあらゆる分野の教員を週替わりでゲストに招き、ユニークな研究を紹介しています。

(左から)

観光産業科学部4年次 砂川光さん、観光産業科学部4年次 金武諒馬さん、農学部2年次 皆葉あかりさん、工学部1年次 仲江百代さん、工学部1年次 池原樹さん、理学部3年次 比嘉基貴さん、理学部3年次 國吉拓真さん、国際地域創造学部4年次 宮城りなさん、国際地域創造学部3年次 佐久本真帆さん

注目！琉大生



アーカイブ

琉大公式ラジオ「琉大やいび～ん」中心メンバーコメント

・比嘉 基貴さん（理学部3年次）

「自分たちが調べた範囲では、大学生の一般層をターゲットとしたラジオ番組は琉大やいび～ん！が日本で初！だったと思うので、この番組に参加出来ている事が嬉しいです。気づかなかつた琉大の魅力について知る機会になると思うので、時間があれば、気軽に聴いてもらって、ツイキヤスなどにもコメントもしてもらえると嬉しいです」

・皆葉 あかりさん（農学部2年次）

「取材や放送がとても楽しいので、大変なことも大変に感じません！番組では、琉大の素敵なところをたくさんお届けしていきたいです。自分の声で琉大の魅力を伝えたい、そんな学生さんはぜひ琉大やいび～んのメンバーになってください！」

・池原 樹さん（工学部1年次）

「この番組を通じて、教員1人1人信念を持ち、それぞれの研究テーマがあり、研究に誇りを持って日々活動していることに気づきました。琉球大学の恵まれた自然環境や研究施設など、普段学生生活をしていてはわからないことをたくさん知ることができ、日々驚きと楽しさで溢れています。美しい沖縄にある琉球大学の魅力を是非一緒に伝えてみませんか？」

学生メンバー募集中です！

※連絡先：ryudai81bn@gmail.com



Instagram



Twitter



琉大ブランド商品開発支援事業1



R217酵母仕込み 琉球大学の泡盛

平成28年に始まった「琉球大学ブランド商品開発支援事業」。地域の活性化と本大学のブランド力向上のため、公募により採択された本学の研究者が地域の企業と連携し、毎年オリジナリティ溢れる商品を開発・販売しています。その第一弾として作られたのが、「琉球大学の泡盛」。開発に携わったのが、外山博英教授を中心とする農学部 発酵微生物学研究室、成分解析とコンサルティングを担う株式会社バイオジェット、そして琉大と同じ西原町にあり、伝統的な甕仕込み泡盛を製造する株式会社石川酒造場です。

価格 1,800円(税込)
※琉球大学生活協同組合販売価格

外山 博英 × 塚原 正俊 × 上間 長亮

伝統技術と先端技術の融合で生まれた新たな泡盛

外山教授率いる農学部発酵微生物学研究室では、泡盛酵母や黒麹菌の特性解析や遺伝子解析、泡盛成分の分析など、泡盛醸造における伝統技術の科学的解析に様々な研究成果を上げています。そのため、「琉球大学ブランド商品の第一号として世に出るのは、当然沖縄県を代表する特産品の泡盛で有るべきだ」という外山教授の主張が採択され、商品化がスタートしたのでした。

泡盛を作る上で欠かせないのが「酵母」。酵母とは泡盛の製造工程でアルコール発酵させる際に使われる微生物のこと。泡盛の味や香りの決め手となる重要な存在です。泡盛の製造には、まず原料となるタイ米を蒸して黒麹菌を散布し米麹を作ります。そこに水と酵母を混ぜて発酵させます。黒麹菌がでんぷんを分解する酵素とクエン酸を多く含むもろみを作るので、殺菌作用のあるクエン酸に耐性のある酵母であることが必要条件となります。現在、県内の多くの泡盛酒造所では、沖縄県酒造組合が保有する泡盛101号酵母を使用しています。外山先生の研

農学部
亜熱帯生物資源科学科
発酵・生命科学分野
外山 博英 教授



究室では、泡盛の製造に適していることが既に証明されているこの101号酵母を親株とし、香気バランスが良くアルコール生成能に優れた新たな酵母「R217」の取り出しに成功しました。「R217」は、既存の泡盛の酵母ではなかなか出ない、洋梨を思わせるフルーティで爽やかな香りが特徴です。

それぞれの強みを活かした協同作業が スピーディな商品化を実現

事業の募集は2016年の6月、採択されたのが同年9月。翌年3月末までに商品化する事が決定されていたため、新商品開発のスケジュールとしては非常にタイトなものでした。しかし、外山先生の研究室では長年の研究により酵母の準備が出来ていたため、すぐにバイオジェットでの解析が始まりました。性質の良い酵母を使用することで雑味のない安定した品質の製品を沢山作ることが出来ます。石川酒造場では1回の仕込みが



株式会社バイオジェット
CEO
先端研究部 研究統括
塚原 正俊



株式会社石川酒造場
製造部 部長
上間 長亮

20 瓢、ボトルにして約 2000 本分を製造しますが、R217 はこれだけの量を醸造するのに耐えうる酵母であり、また最適な醸造条件がバイオジエットにより確認されていたため、初めて使用する酵母でありながらスムーズに醸造の段階に入ることが出来ました。石川酒造場では、泡盛を蒸留した後に貯酒用の甕に入れ一定期間熟成させますが、スケジュールの都合上通常の熟成期間よりも短く出来るよう調整。実は石川酒造場で製造に関わった上間さんは琉球大学農学部生物資源科学科の卒業生。研究者と製造者両方の視点がスピーディな商品化の一助になったと考えられます。

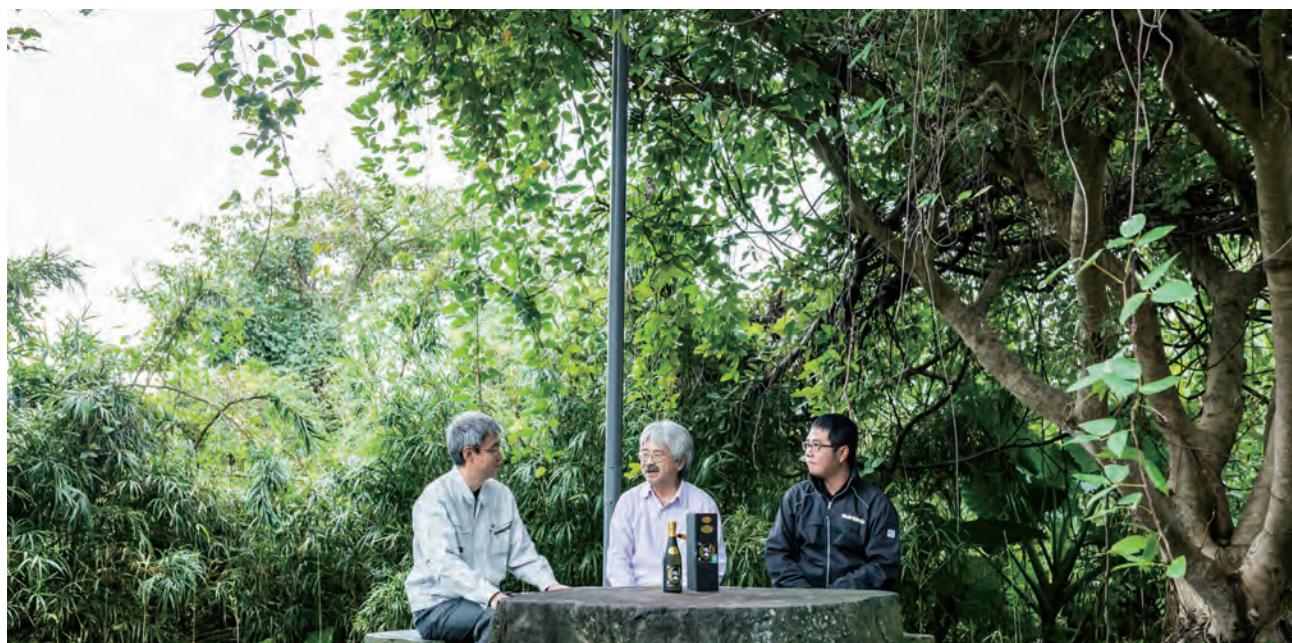
琉大ブランドの付加価値を高める戦略と今後の展開

本商品のパッケージは、外山先生の研究室の学生がデザインを行いました。この泡盛に使用する瓶は一般的に流通している三合瓶(600ml)よりやや少ない 500ml。ラベルと外箱には、琉球大学の学章を元に沖縄の代表的植物である芭蕉の葉をイメージしたモチーフがあしらわれ、黒と金を基調にした高級感のあ



る仕上がりになっています。また、外箱の蓋の内側には R217 酵母についての説明が簡潔な言葉で記され、パッケージとしてのデザイン性を崩さないまま大学生まれのアカデミックな泡盛であることが表現されています。

「琉球大学の泡盛」はこれまでに約 2000 本製造され、現在も購入可能ですが、買えるのは琉球大学内生協、石川酒造場蔵元、そして那覇空港内の 1 店舗のみ。あえて販売チャネルを絞ることでも商品の付加価値を高め、より特別感を生み出しています。今後は、新たな酵母または黒麹菌によるオリジナル泡盛第 2 弾を展開予定。琉球大学ブランド商品開発支援事業としての商品化ではありませんが、県内酒造所を巡り新しい泡盛を作りたいと話した学生の声を拾い上げた新たな酒造所からの声掛けにより、実現しつつあります。琉球大学ブランドとして誕生した商品をきっかけに、地域、産業の新たなる展開が期待されます。



琉大ブランド商品開発支援事業2

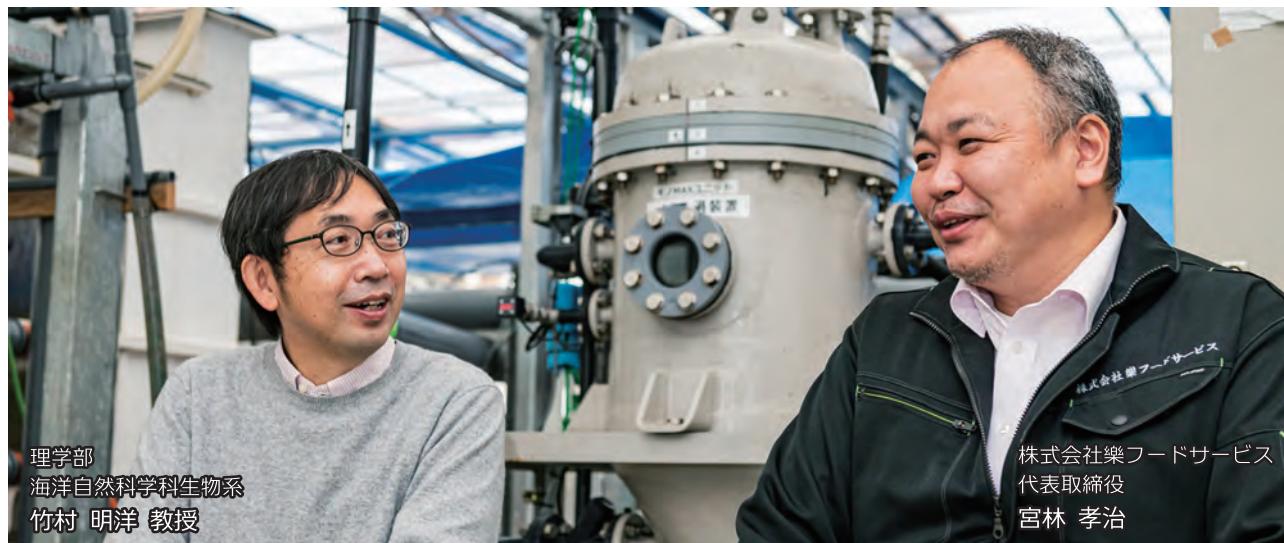


価格800円(税込)※JTA及びRACでの先行機内販売価格

竹村明洋 × 宮林孝治 × 島袋亮道 × 福永耕大

最先端のサステナブルシステムで陸上養殖された ミーバイを手軽に食べられるレトルト商品に

竹村教授は現在、科学技術振興機構共創の場形成支援プロジェクトによりミーバイ(和名：ヤイトハタ)の陸上養殖の研究をおこなっています。農水一体型のサステイナブル陸上養殖は、魚の生産を陸上の閉鎖空間で厳密な水質管理のもとでおこなうため、海洋汚染の影響を受けることがなく、抗生物質など薬物の投与も必要ないため、少ないエネルギーで安全安心な品質を保つことが出来ます。また、将来懸念される海洋資源の減少に対応するための画期的なシステムとしても世界中が注目しています。しかし、安定したミーバイの生産が実現したことで、次にそれをどう活用するかが課題となっていました。



理学部
海洋自然学科生物系
竹村 明洋 教授

株式会社樂フードサービス
代表取締役
宮林 孝治

海を汚さない方法で育てた、
海と人に優しい商品です

琉大卒のサカナたちシリーズ①

琉球大学が育てた 琉大ミーバイの アクアパツツア

琉大ブランド商品開発事業に採択されて令和3年度に誕生した「琉大ミーバイのアクアパツツア」は、理学部 海洋自然学科の竹村明洋教授と、地域連携推進機構の島袋亮道特命准教授、戦略的研究プロジェクトセンターの福永耕大博士をリーダーとする学生チーム、そして北中城村で食に関わる様々な事業を手掛ける樂フードサービスの共同開発により誕生しました。

研究室の学生を巻き込んでチームを結成

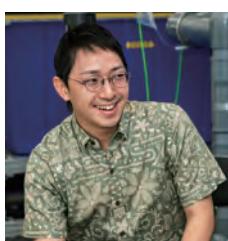
以前から琉大ブランド商品を作つてみたいと思っていた竹村教授は、島袋准教授と、研究室の学生を巻き込みチームを結成。令和3年度 琉球大学ブランド商品開発支援事業に応募しました。琉大で養殖したミーバイを使ったレトルト商品の開発というテーマで採択された後、メニューの選定がスタート。バター焼き、アクアパツツア、味噌汁など、様々な候補の中から選ばれたのはアクアパツツア。コロナ禍で「中食」が注目されたことにより、アクア

パツツアなどの凝った料理を自宅で食べる傾向が強まったことで、第一弾のメニューにふさわしいと意見がまとまりました。ターゲットを子どもからお年寄りまで幅広く味わって欲しいとの想いから、安全に食べられるよう骨抜きをしたミーバイの切り身を使用し、試作を重ねてレトルトとは思えない1品が誕生しました。実はレトルト商品にはレトルト臭というものがあり、どの商品も同じ様な味に感じてしまうのですが、楽フードサービスにて改良を重ねた結果、レトルト臭をほとんど感じない仕上がりになっています。

パッケージに見られる開発ストーリー

パッケージデザインを担当したのは、福永さん。最初のデザインは、ワインを傍らに置いた無難な料理写真でしたが、楽フードサービスの宮林孝治代表からストップがかかりました。「一般的なレトルト商品を作るだけなら、弊社だけで完結出来るんです。でもこの商品はストーリーが良いじゃないですか。琉大卒のサカナたちシリーズ①ってことは、次があるということ。琉大生が夢のあることをしようとしているのに、それが見えないパッケージでは面白くないことをストレートに伝えました」(宮林代表)

いい商品を作ればいいと思っていた竹村先生と福永さんは、宮林代表の言葉にそこまで考えててくれているのかと考え直し、その日のうちに写真を撮り直すことに。研究室の学生を総動員して大学構内にミーバイを持込み撮影しました。



戦略的研究プロジェクトセンター
福永 耕大 博士

地域連携推進機構
地域共創企画室
特命准教授
島袋 亮道



持続可能な商品開発で地域振興に役立つ 特産品を目指して

「我々は商品を作る前に商品になる前の『モノ』を作っています。ミーバイを生産し続ける限り、新たな商品を作り続けることが出来るので、第2弾、第3弾もご期待いただければと思います。最初は見た目にもインパクトのあるアクアパツツアを選びましたが、次は味噌汁など、もっと馴染み深い商品にする予定で、実際は第2弾、第3弾の方が好まれるのではないかと考えています。第1弾を買ってくれた方が売り場で見かけて『新しい琉大シリーズだ』と買ってくれたら嬉しいですね」(竹村教授)

この商品は完成したばかりです。日本トランസオーシャン航空と琉球エアコミューターの機内で先行販売されていますが、琉大のお膝元である大学生協、北中城村のアンテナショップ「しおさい市場」の2箇所でも販売予定です。更に「美と健康と賑わいのサンライズタウンプロジェクト」に参画する中城村、北中城村、西原町、与那原町の中部4町村の共通特産品として販売する予定のほか、ふるさと納税の返礼品、他の琉大ブランド商品と一緒にECサイトでの販売も検討されています。新たな商品を作り続けるには、材料の確保だけでなく生産コストの確保も必要。そのため利益も追求すべきであると竹村教授は考えます。

現在は中城村の浜漁港にある養殖場だけですが、実は琉大の学内にも養殖場を建設することが決まっているため、今後より多くの生産が見込めます。レトルト商品は常温での長期保存が可能なため、今よりも更に低コストで作る事が可能となれば、災害時の備蓄食料として保管することも一案としてあります。琉大卒のサカナたちは、様々な可能性を秘めているのです。





現代社会のしくみ

人文社会学部 准教授

のいり なおみ

野入 直美先生

はじめに

「現代社会のしくみ」は、Webclassで動画を配信し、記述式の小テストを課して、点数・コメントを一人ひとりにリプライするオンライン授業です。

リモート教育の可能性

手探りでリモート教育を始めると、家にこもってパソコンに向かっている学生たちの孤立感が伝わってきました。そこで、学生同士でやりとりをしたいというニーズに応えて、掲示板でお互いの投稿にコメントするワークを設けました。また、小テストは学生がシェア不可としたもの以外の答案をまとめた回答集を公開しました。すると、講義の動画よりも早く既読がつきました。学生は、他の学生たちのことを切実に知りたいのです。そこで、何かと一緒にできたらいいかもと思い、「コロナ禍をシェアして乗りきる」という任意プロジェクトを5月に提案しました。これは2ヶ月で授業の教材に使える短い動画を学生グループがリモートで協働してつくるもので、「オンライン授業の改善提案—やーぐまい（家ごもり）でできること」「おうち時間をもっと楽しく」「生活費の徹底削減」「コロナ特別支援のわかりやすい一覧」という企画が始動しました。コロナ関係のテーマばかりでしたが、これは授業を「パンデミック時代の社会学」へシフトし、ヘイト、リーダーシップ、格差と再分配、記憶などを切り口に論じていたためです。

本講義の成果

学生制作による動画は、私の講義動画の質をはるかに超えました。とくに「やーぐまい」班の動画（文末にQRコード掲載）は、学生だけでなく教員にもSNSでアンケートをとり、満足度の高いツールや、学生・教員が抱える困難を明らかにした上で、具体的にリモート教育の改善提案をするという秀逸なものでした。この動画を同僚や理事に共有したところ、大きな反響がありました。学生たちが、大量の課題や教員からのリプライのなさに苦しみつつも、リモート教育を改善し、コロナ後にも続けるべきと提言したことは、とくに注目されました。

おわりに

学生たちの達成は、私の「コロナ下の学生」に対する認識を一変させました。それまで私は、彼らを不憫に思い、支援しようとしてきました。しかし彼らは、会ったことのない者同士のリモート協働という、私自身が未経験のミッションを成し遂げ、むしろ教員や大学に、これからの大連教育を示唆したのです。

現代の学生は、コロナ禍に堪えているだけでなく、今しか見えないことを観察し、考察し、発信する主体です。大学教育は、コロナ下で得た気づきが生涯を照らすように、今、学生であることがアドバンテージになるように、学生の能動性と協働能力を最大限に引き出すことができます。リモートを障壁にするのもスプリングボードにするのも、すべては私たち次第です。



「やーぐまい（家ごもり）でできること」プロジェクトの動画。個人が特定されないよう音声を加工して、率直な＜声＞を伝えています。





大気の科学

理学部 准教授

やまだ ひろゆき

山田 広幸先生

本講義の概要

この講義は自然系科目の1つです。雲や台風などの身近な物から、大気循環や気候変動など地球規模のものまで、大気中で起こる様々な現象に注目し、それらがどのように起こるのか、どのように監視・予測されているのか、という点について解説します。文系・理系を問わず受講できる共通科目の1つなので、気象の専門知識を体系的に理解してもらうことより、生活に役立つ気象の基礎知識を身につけてもらうことを目指しています。例年、100名近い学生が受講しています。

我々は地球大気の中で生活をしており、大気中の現象は我々の日常生活と深く関わっています。時として起こる集中豪雨や暴風など、命の危険を伴う現象から身を守るために、現象のしくみを理解するとともに、気象情報や天気予報をうまく活用することが求められます。インターネットを通じて様々な気象データが提供されているので、基礎知識を生かせば気象の変化を自分で予測することができます。講義で学ぶ知識を日々の生活にも役立てて欲しいと考えています。

「気象」の面白さを伝えるために

大学入学までに学習する気象の知識というと、中学の理科と高校の地学ですが、地学を開講する高校は年々減少しています。このため多くの大学生にとって気象を学ぶのは中学以来

のことになります。中には理系科目に対して強い苦手意識を抱いている人がいますので、そのような人にも興味を持ってもらえるよう、基礎知識の解説だけにとどまらず、気象に関する面白い話題や、研究の最先端についても取り上げています。初回の講義で「印象に残る大気現象」についてアンケートを取り、それを毎回の講義で取り上げて解説しています。また、最近起きた台風や竜巻、大雨などについても取り上げています。特に、講義の最中に雨が降ってきた場合は、講義の途中でも気象レーダーの雨雲分布を見せて、いつ止むかを予測しています。私自身は台風について研究しており、航空機を用いて台風を観測するプロジェクトに参加しているので、台風の中心に突入するビデオ映像などを紹介しています。

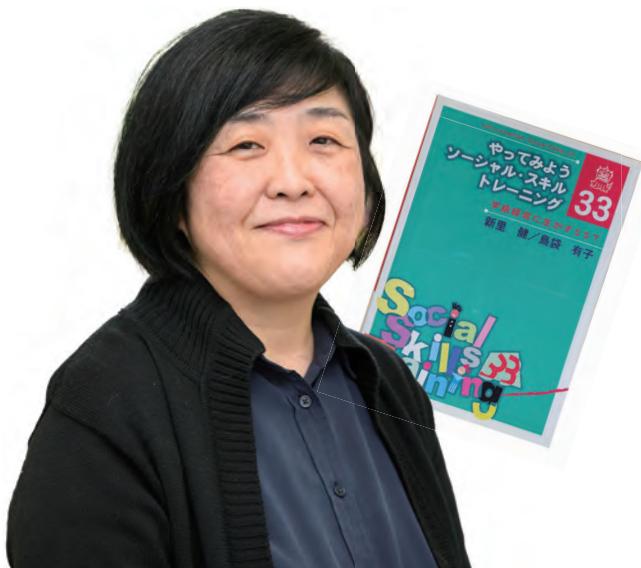
本講義の特徴

コロナ感染拡大の影響で遠隔授業となりましたが、対面授業ではできないことを試しています。Zoomによるオンライン方式なので、講義内容を録画して共有し、復習に活用してもらっています。チャットのダイレクトメッセージ機能で教員に直接質問ができるようにしております。講義中に受けた質問はその都度読み上げ、その場で補足説明をしています。PCの画面を見ての受講は眼が疲れるので、講義中に数分の休憩を2回取り、講義全体を3部構成としています。アンケート調査では、これについて集中力が途切れないと感じます。100名近い学生と対話するのは難しいのですが、できるだけ学生の意見を取り入れて、気象に興味を持つきっかけになる講義を目指しています。



You Tube
台風の目（航空機による観測）





適応の心理

グローバル教育支援機構 カウンセラー
 しまぶくろ ゆうこ
島袋 有子先生

本講義の概要

「適応の心理」は、学生のメンタルヘルスの改善あるいは予防的な効果をねらいとしています。担当しているのは保健管理センターのカウンセラーで、古川卓先生（グローバル教育支援機構 教授）を中心に、大嶺歩先生（グローバル教育支援機構 カウンセラー）と私の3人で前後期計4クラスを開講しています。

講義で取り上げる課題は、心理劇やソーシャルスキルトレーニングといった集団心理療法の技法を応用して構成しており、その多くはゲーム性を高くし、他者と交流しやすい状況を作り出すことを意識して計画されています。

コロナ禍におけるグループワークへの取り組み

グループワークへ参加し、様々な課題を通して他者と交流する中で、自己理解や他者理解を進めてもらう授業であるので、令和2年に新型コロナウイルスが感染拡大し、遠隔で授業を行わなければならなくなつた時には「さあ、どうする？」とかなり悩みました。遠隔で他者との交流を促進するには・・・?と私は頭を抱えてしまつたのですが、古川先生から「個々に課題に取り組んでもらい、そのレポートを取りまとめて配信し、それを閲覧してもらってリフレクションシートの提出を求める」という「オンドマンド形式でのグループワーク」のご提案をいただき、実践していくことになりました。古川先生からは

他にも「コロナ禍で他者と距離を取ること（ソーシャルディスタンス）を求められる社会状況への適応」についてテーマにした授業回も設けようというご提案をいただきました。

時代に適応したオンラインの活用

他の先生方はWebclassやZoomアプリといったアイテムを駆使して授業を展開されたのですが、私は電子機器にめっぽう弱く、令和2年度は教務情報システムのみを使用して授業を行いました。令和3年度には私もWebclassやZoomアプリをかろうじて使用できるようになりましたので、少しずつこの社会状況に「適応」してきていると言えるかもしれません（苦笑）。

遠隔授業は苦労も多かったのですが、勉強になったこともたくさんありました。例年、授業時間内にショートレポートの提出を求めていましたが、オンドマンド形式にすることで、おそらく時間をかけて思索したであろうと思われるレポートを多数、目にすることができます。また、グループの中という状況でなく、それぞれ自分ひとりという状況で考えを巡らせることで、じっくり自分自身と向き合つただなど感じられるレポートも多く見られました。他者についても、目の前にいないことでかえって想像力がかき立てられる部分があつたのかもしれません。

おわりに

少し大げさだと感じられるかもしれません、本授業に参加することで、学生生活のみならず、卒業後も生涯に亘って、生きやすくなるヒントのようなものを得てもらえたなら、とひそかに考えながらこの授業を行っています。

今後もどんな学生に会えるか、とても楽しみにしています。





情報科学演習

工学部 助教

よしだ
吉田 たけお先生

はじめに

私が担当している「情報科学演習」において、令和2年度のプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞させて頂きました。このような名誉ある賞を頂き、受講生ならびに関係者の皆様に感謝致します。

令和2年度は、本講義を担当してまだ2年目で、ほぼ全ての講義がオンライン実施に移行された年でした。特筆できるような工夫をする余裕はなく、むしろ担当者も受講生も戸惑いながらのオンライン講義であったため、思い掛けない受賞に驚いておりますが、授業評価アンケートにおいて高評価だった項目を、簡単に紹介させて頂きます。

本講義の概要

本講義は、基本的な情報リテラシーの習得を目的としています。情報リテラシーとは、一言でいえば「情報を使いこなせる能力」のことで、現代の情報化社会において必須の能力と言えます。本講義では特に、情報を使いこなす上で必要となる、パソコン、インターネット、Officeソフトの基礎知識および基本的な使用方法を、演習を交えながら解説しています。

授業評価アンケートにおいて高評価だった項目

① 講義ページ

私は、担当しているほぼ全ての講義において、専用のWebサ

イトを開設（作成）しています。各Webサイトには、連絡事項や講義資料だけでなく、独習できるように、演習や実験の進め方、レポートの書き方等を詳細に記載しております。情報科学演習についても、講義ページと称して、専用のWebサイトを開設しましたが、私にとっては、特別なことでも工夫したことでもありません。ですが受講生からは、「予習、復習、独習がしやすくて便利」、「全ての情報が整理されていて使いやすい」などの高評価を頂きました。文末のQRコードから講義ページをご覧頂けます。興味のある方は、一度覗いてみて下さい。

② 質問のし易さ

受講生からの質問は、常にウェルカムですが、質問し易い環境になっているかと問われれば、それを心掛けているつもりであっても、実現できているかどうかは怪しいと考えています。全ての担当講義において、しばしば質問を促しますが、ほとんどの場合、沈黙が続きます。ところが今回の受講生は、こちらから促さなくても、多くの質問をしてくれました。その結果、「質問し易い上に、すぐに答えてくれるので、非常に良かった」といった高評価を頂きました。この評価は、受講生に恵まれた結果だと考えています。

おわりに

今回の受賞については、普段の心掛けが評価されたものとして前向きに捉えたいと思いますが、受講生に恵まれたことが一番の受賞要因だと思います。改めて、受講生ならびに関係者の皆様に感謝したいと思います。



2021年度 情報科学演習講義ページ



UR Topics

[8/18]

～地域社会の持続可能な発展の実現を目指して～
沖縄ガス株式会社との産学連携に係る協定締結
について



[8/27]

沖縄県北部及び西表島の世界自然遺産登録地における保全管理等のための連携と協力に関する
協定の締結について



[9/8]

本学のカリキュラムが文部科学省
「数理・データサイエンス・AI教育プログラム
(リテラシーレベル)」に認定されました



[10/11]

文部科学省で
「首里城再興に貢献する学術ネットワーク」
を展示しました



[10/27]

琉大硬式野球部が
九州地区選手権南部九州ブロック大会準優勝



[12/7]

製薬企業へのヒト組織提供 日本初の
「琉球大学産業利用倫理審査委員会」による承認
～難病に対する再生医療等製品の開発加速へ～



ISO9001/ISO14001 認証取得

(ビル設備管理、病院医療関連業務、建物の清掃業務、警備業務、総合建設業)

トップクラスの技術が見守る、安心感



日本総合整美株式会社

代表取締役 古川 祐起

沖縄本社：沖縄県豊見城市豊崎3番地26 代表番号：098-840-2777 FAX：098-840-2780
【中部営業所・那覇営業所・浦添営業所】【先島営業所・東京本社】

[12/21]

幕末・維新に用いられた銃弾の鉛はどこから?
～鉛同位体比から鉛資源の流通を復元～



[2/15]

JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の本格型(最大10年間、3.2億円/年度)に本学の学際的チームと県内外の15機関の合同チームが採択され、資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖プロジェクトを本格開始



プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの表彰式を行いました



2022年 学長年頭挨拶



令和3年度第2回学生と学長との懇談会を開催



第70回琉大祭、対面とオンラインのハイブリッド開催



開学70周年記念事業

- ・地域連携企画展
- ・国際交流シンポジウム

開学 70 周年



琉球大学概要 2021年度(PDF)



琉球大学環境報告書 2021(PDF)



琉球大学財務報告書 2021
「さんみん」(PDF)



緑豊かな自然に囲まれた読谷村の工場で作っています。



OKIHAMU
オキハム



オキハム HP



大学基金だより

学生の修学に ご支援をいただきました

吉武登氏（よしたけ保育園前理事長）より、経済的に困窮する学生支援のための「琉球大学修学支援基金」へ昨年度に引きつづき150万円のご寄附をいただきました。吉武様からのご寄附は合計300万円となります。「経済的に厳しい状況にある学生がアルバイトに時間を取りられて勉学の時間が取れないということがないように少しでも支援したい」とお話をいただきました。



昨年度の贈呈式での記念撮影（中央：吉武登様）

令和3年12月2日（木）、学長室にて、当山尚幸様（弁護士、本学経営協議会委員）への贈呈式を執り行いました。当山様は、法務研究科生の経済的負担を軽減し、安心して学修に取組めるよう継続的な寄附を続けてこられたほか、新型コロナウイルス感染症による影響などに鑑み更なる高額な寄附をされたことから、謝意を表し、本学から感謝状を贈呈いたしました。

式典での懇談では西田睦学長より感謝が述べられ、本学法務研究科へ創立時より深く携わってこられた当山様より、当研究科設置の際に苦労した想い出などについて話が及びました。



贈呈式出席者での記念撮影（中央左：当山尚幸様、中央右：西田睦学長）

令和3年12月6日（月）、学長室にて、一般財団法人鎌倉フェローシップへ感謝状贈呈式が行われました。

式典では一般財団法人鎌倉フェローシップ代表理事鎌倉淳爾様から今後の本学の教育研究について触れられ、西田睦学長より感謝の言葉が述べされました。

その後、現在のオンライン授業の取組や学生支援について懇談及び意見の交換が行われました。

いただいたご寄附については、奨学金支給の原資として活用し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により厳しい経済状況におかれた学生の負担を軽減し、法曹への道を継続して歩めるよう支援しています。



贈呈式出席者での記念撮影（中央：鎌倉淳爾様）

沖縄の
ビールがうまい。

STOP! 20歳未満飲酒
飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。のんだあとはリサイクル

★★★ Orion
★★★
THE DRAFT
★★★
大麦使用 伊江島産 沖縄県
オリオンビール株式会社
<https://www.orionbeer.co.jp/>

令和3年度琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞について

去る2月15日(火)に、令和3年度琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞の表彰式が行われました。本賞は、琉球大学特定基金「うない女性研究者・リーダー育成基金」による事業の一環として本年度新設され、将来を担う優秀な女性リーダーの育成を目的に、本学の女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を表彰するものです。

多数の応募があつた中、記念すべき第一回目の最優秀賞に教育学部4年次の西島櫻さん「蛍光トラッキング法を用いたオキナワシリケンイモリ (*Cynops ensicauda popei*) の行動圈特性の調査」、優秀賞に人文社会科学研究科2年次の太田光さん「沖縄戦における男子学徒隊の戦後の記録編纂の過程と各学校の継承に関する研究」、「平和学習での講師および戦跡ガイド、一中学徒隊資料展示室での解説員の活動」が選ばれ、審査委員長を務めた井上章二理事・副学長(教育・学生支援担当)より、表彰状と副賞として金一封が授与されました。

琉球大学では、学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していく事を目的に琉球大学基金を設置し、広く社会からいただいた寄附金による支援事業を実施しています。使途を特定せず琉球大学基金運営委員会承認のもと事業が実施される琉球大学一般基金と、特定の使途を目的とした6つの特定基金が設置されています。

詳しくは右記QRコードより琉球大学基金ホームページをご覧ください。



最優秀賞
教育学部4年次 西島 櫻さん



優秀賞
人文社会科学研究科2年次 太田 光さん



「沖縄健康医療推進基金」への寄附型自動販売機を設置します

沖縄健康医療推進基金は、令和7年初頭に移転を計画している琉球大学医学部・病院において、快適な診療環境の提供、教育・研究環境の充実を目的として設置した特定基金です。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社のご協力により、当該基金へ売り上げ1本につき、数円から10円程度の寄附型自動販売機の設置を予定しています。



寄附型自動販売機イメージ図

ガスで冷房! ガスで節電!
沖縄ガス
地球にやさしいガスをお届けします。

沖縄ガスHPは
こちら

QRコード

沖縄ガスはSDGsに取り組んでいます。



#3 並里 成 選手

#4 コー・フリッピン 選手

#14 岸本 隆一 選手

全保連は、琉球ゴールデンキングスと
皆さんの就勝つを応援しています！



QUALITY FOR THE FUTURE

新たな価値へ、新たな未来へ

全保連株式会社